

奄美の新緑 甲子園に現る

大島高 生徒応援団 旅行記



1塁側アルプススタンドを緑に染め上げた大高応援団。感染症予防のため声援が禁止される中、メガホンを打ち鳴らし選手を激励した。六調の手踊りも飛び出し、奄美ならではの応援は大いに盛り上がった。

新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いた中、生徒応援団の派遣の判断はきりぎりまでずれ込んだ。しかし、最終的には派遣が決定し、吹奏楽部・ダンス部等の第一陣48名が3月20日に出発。1・2年生257名が21日に第二陣として、飛行機3機に分列して奄美を出発し、道中では様々な方から応援のメッセージをいただき、心が温まるシーンが数多くあった。甲子園に到着した一行は、全国から集まった応援者と合流、大島高校応援団として、揃いの緑色のウィンドブレーカーを着て、まるで奄美の新緑の山々のような迫力ある応援席を出現させた。

空港スタッフの応援に感動の出発



3月21日に奄美空港から鹿児島空港へ向かう2年生は、駐機場の車両に「大島高校甲子園出場おめでとう、目指せベスト8!」という文字を発見し歓声を上げた。また、空港スタッフが「大高旋風」「輝け大高球児」と書かれたプレートを持ち見送った。地元の期待が、応援する生徒たちにも注がれていることを感じ、身の引き締まる気持ちになった。

雨天順延 予修学旅行実現

甲子園の初日の試合が雨ですべて順延になったため、2日目22日は応援はなく、バスで万博記念公園等へ少しだけ観光に出かけることができた。車窓からは、大阪城や、奄美では見られないソメイヨシノを見て楽しんだ。万博記念公園では、公園内の国立民族学博物館を見学する機会もなかった。

大島 with 明秀日立 試合後に深まる両校の絆

3月23日午前10時、阪神甲子園球場から約1km離れた駐車場で大島高校生徒応援団はバスから降り立ち、徒歩で球場に向かった。歩道には、本校が緑色、明秀日立高校が青色のウィンドブレーカーを着用した生徒応援団の2つの列が、交わることなく続いていた。そこには、両校の試合前の緊張感が張りつめていた。ところが、13時30分、試合が終わり、球場を後にする両校の生徒たちからは緊張から解放された笑顔が浮かんでいた。両校の生徒たちは「アウラって来たの!」等と質問しあったり、試合の感想について話し合ったりしてすっかり打ち解けていった。緑色と青色が1列に球場へ向かっていった午前中



明秀日立高校の生徒のスマートフォンの画面には「ありがとう」の文字が輝いていた。す緑色と青色は、生徒たちの笑顔も相まって、イリュミネーションのように輝いて見えた。13時50分、駐車場に到着した生徒らは、クラスごとにそれぞれのバスに乗り込んだ。しばらくすると、本校の生徒たちと隣の停車している明秀日立高校のバスに乗っている生徒との間で、「ありがとう」等と書かれたスマートフォン画面を向け合っている感覚の交流が始まった。スマートフォンには、甲子園という晴れの舞台で対戦で

きた感謝を伝えるメッセージが輝いていた。このやり取りを見ていた生徒からは「うれしいね」「温かいね」という声がかかれ、バスの中は笑顔と笑い声であふれていた。生徒たちの中にはインスタグラム等のSNSでも今も交流している人も少なくないという。「試合後はノースイード」の精神で、お互いをリスペクトし合うその姿からは、若者らしいさわやかさと、本気で戦い合った者同士の間にしか生まれない絆が感じられた。(野崎優)

郷土色あふれる応援に反響

吹奏楽部・ダンス部

島唄の演奏でスタンドが一体に

3月23日の甲子園では、大高ナインの奮闘はもちろん、地元色を打ち出した吹奏楽部、ダンス部の応援にも注目が集まった。

担当されたのは、大島北高校講師の城昭久さん(67歳、大高24回卒)。事前の取材に「全国的な応援曲に、島唄や新民歌などの奄美にしかない音楽を入れることにこだわった」と話した。また、8年前の甲子園出場時に本校校長であった、今は亡き陸村優一郎先生と旧友の城さんは「島の音楽を彼にも届けたい」と熱く語った。



吹奏楽部の「島のブルース」の演奏に合わせて、八月踊りの舞踊の要素を込めてしなやかに舞うダンス部

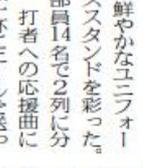
「私たちは他の高校と違い、チア部でなくダンス部。応援では曲の持つ本来の意味を表現することにこだわりました」と語る。「稲すり節」では、豊作への祈りを勝利への祈りと重ねて表現し、普段の創作ダンスを生活したダンス部らしい応援を意識したという。試合後は島内外からの反響が大きく、SNSには「大島のチアは何が違う」と書き込まれたという。吹奏楽部

とダンス部の郷土色を活かした応援は、大高ナインの闘志を奮い立たせたに違いない。(富山葉生 櫻元莉々亜)

島唄の表現をチアダンスに込めて

吹奏楽部の演奏に合わせては、吹奏楽部の演奏を見せつらとしたチアダンスを見せ

ずれないようにあ、奄美らしい曲の演奏を指示する山角先生。えて少く早く早く演奏して音を合わせました」と工夫を語った。また、各楽器の演奏する位置は、音域の特徴に合わせて決めたと。部員の永村玲緒奈さん(3-13古仁屋中)は「甲子園という舞台での演奏は初めてのことだからとても難しかったのですが、応援の気持ちを届けたいことを大切にしっかりと演奏できました」と振り返った。



吹奏楽部の「島のブルース」の演奏に合わせて、八月踊りの舞踊の要素を込めてしなやかに舞うダンス部

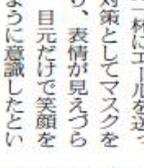
4月24日、生徒たちは奄美へ4機の飛行機に分乗して無事に帰島。貴重な応援旅行を実現して下さった学校・安慶会・地元の方々から感謝したい。そして、「甲子園、夏再び!」の精一杯のエネルギーを高ナインに送りたい。(脇田蒼吾 川田翔太 時田琥太郎)

試合終了後には、武下義広さん(61歳、大高30回卒)は、「諦めない最後の攻撃がすばらしかった。夏に向けて頑張ってほしい」と大高ナインの活躍を讃えた。状況が厳しくても、選手・応援ともに「最後まで諦めない!」奄美の「すっこんで魂」を全国に示せた試合だったと誇った。



感染症対策で間隔を空けて演奏する吹奏楽部

「イトウ」や「ワイド節」「手舞いの空」などの島の曲を新たに追加して演奏した。今回演奏した島唄の編曲を



吹奏楽部の演奏を見せつらとしたチアダンスを見せ

とダンス部の郷土色を活かした応援は、大高ナインの闘志を奮い立たせたに違いない。(富山葉生 櫻元莉々亜)

4月24日、生徒たちは奄美へ4機の飛行機に分乗して無事に帰島。貴重な応援旅行を実現して下さった学校・安慶会・地元の方々から感謝したい。そして、「甲子園、夏再び!」の精一杯のエネルギーを高ナインに送りたい。(脇田蒼吾 川田翔太 時田琥太郎)